

## ルポ：平等の国ノルウェーの選挙

地球上で男女平等が最も進んだ国はノルウェーだと思います。

政界で活躍する男女の数がほぼ同じ。民間企業の取締役にも女性の進出が顕著。2016年現在、首相、ノルウェー経営者連盟会長、ノルウェー労働者連盟代表、最高裁長官という政界、財界、労働界、法曹界4部門のトップすべてを女性が占めているのです。主要8政党のうち5政党の党首が女性です。

社会的に弱い集団の声が、政治の場に反映されなければ、こうはならないはずです。

国連の「人間開発指数 HDI」に基づいた世界ランキングによれば、ノルウェーは1位。調査の始まった1990年からの25年間で、15回も世界一です。健康が保障されて、教育が十分に受けられて、必要な物を買う財力があって、地域の政治に誰もが参加できる……これは私のメガネで見ると、世界で最も住みやすい国です。

そんなノルウェーでも、とりわけ男女平等が一番進んだ町、つまり女性が最も住みやすい町はどこだろうと、考えて調べてみました。すると、首都オスロでも、観光都市ベルゲンでも、古都トロンハイムでもなくて、なんと、最北の町フィンマルク県ヴァドソー市でした（次頁地図）。日本ならさしづめ、北海道の稚内市か根室市といったところ。そこが、ノルウェー政府の男女平等指数に基づく調査（表1）で、堂々の第1位なのです。

ひるがえって日本ですが、わがふるさとの秋田は日本の代表的過疎地です。最低賃金は全国平均を大幅に下回る654円。2012年の衆院選で選挙運動を通じて私が垣間見た厳しい暮らしぶりが、今でも目に浮かびます。

「朝から3回目だ。腰も痛いし、手も豆だらけ。んだども、やるひと、いねえがら」と、雪かきをする女性は85歳でした。「金がないから、病院にあまり行げねえ」と、こぼした中年の男性のお宅は、すえた哀しい匂いがただよっていました。

このような方たちの暮らしをよくするのが政治の役目のはずです。  
そこで、ふるさとを思い描きつつ、私の好きなノルウェーの政治風土を5話、紹介します。

訪ねたのは北緯70度4分、そこから先は北極海というヨーロッパ最北端の町。ここに住む人々が「私たちは快適だ」と言うなら、これは本物の民主主義です。きっと何か政治的な仕掛けがあるにちがいありません。

(原稿は、自治労出版センター『月刊自治研』2012年1月号に掲載された「ルポ 世界でもっとも住みやすい町」や、ノルウェー王国大使館ホームページ連載「ノルウェー地方選挙レポート2011」をもとに、大幅に加筆修正したものです)



### 【表1】ノルウェー自治体の男女平等指数とは

ヴァドソー市が男女平等度でトップであることは、ノルウェー統計局の「自治体の男女平等指数」による。1999年から毎年、自治体（日本の市町村にあたる）の男女平等度を、以下の12項目で比較している。

- 1) 1歳から5歳までの子どもの保育園への入園率
- 2) 市議会における女性の割合
- 3) 高等教育をうけた女性と男性の割合
- 4) 就業している女性と男性の割合
- 5) 男女別平均年収
- 6) パートタイム労働についている女性と男性の割合
- 7) パパ・クオータ、またはその期間以上の育児休暇をとった男性の割合
- 8) 性によるバランスがとれている産業に働く労働者の割合
- 9) 公務員における女性の割合
- 10) 私企業における女性の割合
- 11) 管理職に占める女性の割合
- 12) 性に偏らない教育科目を選択している高校生の割合